北海道長沼町における基本計画の概要

計画のポイント

長沼町は、新千歳空港と札幌の中間に位置しており、主要幹線道路が通過し、道内主要都市へのアクセスが良い地域である。
農業が基幹産業であり、ねぎやはくさい、ブロッコリー、トマト、たまねぎについては、本町が道内の主要な産地である。大豆は道内1位の作付面積と収穫量を誇り、多くの事業者が大豆を使用した味噌や豆腐などの加工品販売に従事している。
自然環境を活かした観光・レクリエーション施設やグリーン・ツーリズムを目的として、近隣や道外から多くの観光客が訪れている。令和2年3月に「南長沼ランプ」（道央圏連絡道路）の開通により、新千歳空港からのアクセスが大幅に向上しており、道央圏や道外、インバウンドの周遊客の増加が見込まれる。
道央圏連絡道路の開通により、札幌への交通の優位性に加えて、新千歳空港や苫小牧港、石狩湾新港、小樽港までのアクセスが向上し、流通拠点として、「中央長沼工業団地」等への新規立地が期待されている。
こうした地域特性を踏まえ、町内農産物を活用した農林水産分野、「ながぬま温泉」等の観光資源を活用した観光関連分野、「道央圏連絡道路」等の交通インフラを活用したものづくり関連分野の振興を図り、企業活動の発展を目指す。

促進区域

北海道長沼町

《促進区域図》

経済的効果の目標

・1件あたり45百万円の付加価値額を創出する地域経済牽引事業を3件創出。
・これらの地域経済牽引事業が促進区域で1.39倍の波及効果を与え、促進区域で**188百万円の付加価値額を創出**することを目指す。

地域経済牽引事業の承認要件

【要件１：地域の特性を活用すること（①～③のいずれか）】
①【地域の特性】長沼町の大豆、小麦、ブロッコリー等の農産物
【活用戦略】農林水産
②【地域の特性】長沼町の「ながぬま温泉」、「道の駅マオイの丘公園」等の観光資源
【活用戦略】観光
③【地域の特性】長沼町の道央圏連絡道路等の交通インフラ
【活用戦略】成長ものづくり

【要件２：高い付加価値を創出すること】
・付加価値増加分：4,458百万円超

【要件３：経済的効果が見込まれること】
・売上：2%以上増加

制度・事業環境の整備

・不動産取得税、固定資産税等の減免措置　・設備投資補助制度の新設
・情報処理促進のための環境整備（公共データの民間公開に関する事項等）
・事業者からの事業環境整備の提案への対応　等

地域経済牽引支援機関

長沼町商工会、㈱北海道銀行、空知信用金庫、ながぬま農協

計画期間

計画同意の日(令和3年3月19日）から令和7年度末日まで